

公共残土利用の農地区画整理ほか

「足柄茶」 栽培を促進



足柄茶の栽培風景(手前の敷きワラは、木材チップから選別したもの)

富士建設が複業化(農業)推進へ

「何をするにも、人が要る。人が居なければ、何もできない」
深刻化の一途をたどる業界の人材不足に危機感を募らせるのは、富士建設(足柄上郡中井町)の文字社長だ。
同社の複業化を推進する企業トップの取り組みなどを紹介する。



文字 和男 社長

人材を生かす

平成5年から国や県事業から発生した公共残土を利用した農地の区画整理、18年から木材リサイクル、20年から足柄茶栽培を手掛けている。

本業一本だと、5~6月に人材を生かせない。そこで足柄茶栽培を行うことで、5月に10日程度、6~7人で作業し、8月には散水を担当させられる。

茶畑の除草には、シルバー人材センターから年間延べ約300人を受け入れており、高齢者雇用にも貢献できる。

民間で行う農地区画整理

道路や下水工事などで発生した残土を有効利用し、補助金を得ず、民間主導により事業化を図る。

一番の目的は、荒地を無くすことだ。水路が未整備の上流域で、豪雨による土砂崩壊が発生すれば、下流域にも悪影響を及ぼしてしまう。畑地を整形する際に抑え盛土を施し、大きな流路断面を持つ水路を整備することが大切だ。

自社の場合、畑地と水田の入り混じった荒地を、果樹園などに利用できる畑地に再整備するケースがほとんど。

搬入する公共残土価格をベースに、20年の実績を踏まえて、地権者へ企画提案を行う。了解を得て組合を設立、設計・施工までを一貫して対応する。造成後は区画整形から水路改修、かんがい設備の設置を行う。国などの補助金を一切活用せず、換地計画・処分まで完了させ、優良農地として整備する。

公共事業が無い時期に有効だ。毎年、足柄などの県西部で手掛けている。荒地に営農後継者が居ない場合には、例えば都市部で定年退職した人や就農希望者などに、農地を一定規模以上貸し出す相談にも応じている。

木材をチップ化、リサイクルへ

第2東名や静岡の遊水地建設で切り出された生木を、茶畑用のパーク堆肥の材料や酪農から出た糞と混合しての堆肥化のほか、ブルーベリーや臭気が出ないバイオトイレの敷設に用いているが、生産したチップの60%は自社の茶畑などで使用している。

その中に、区画整理の表土に使用するパーク堆肥の材料も含まれており、万㎡単位のチップからふるいにかけて粒度を揃え、3~4年で土として使用可能な堆肥にする。

農業で足柄茶を選択

TPPに対応するには大規模機械化農業が有効だ。弊社役員が認定農業者資格を取得したのを機に、耕地面積が狭い神奈川県に見合った大規模機械化農業を検討し、足柄茶が最適であると結論付けた。現在は茶栽培の責任者を務めている。

木材リサイクルで出たチップを敷材として利用すれば、雑草が生えるのを抑制できる。窒素分を加えれば肥料となり、酸性土を好む茶には最適。茶葉の糖分を向上させるメリットも確認している。苗木を植えれば、30~50年は手入れだけで済むため、水稻のように毎年作付けする必要はない。現在は3haだが、20ha規模に拡張したい。

将来に想う

新政権誕生後、アベノミクス効果の実感はない。懸念すべきは10年後、東京オリンピック後に景況が冷え込まないかどうかだろう。地域防災では、建設各社の安全体制(BCP)確立が不可欠ではないか。われわれは大震災規模の災害に遭遇した経験が無く、台風や竜巻などいろいろなケースも予測され、どのように対応できるのか未知数だ。

被災後の復旧活動に携わる重機・ダンプ用の燃料を備蓄できる施設を、県内各所へ早期に設置するべき。その重機などを地場の中小業者は自前で持たなくなり、レンタル業者に頼っているのが現実。被災後、重機を現地へ搬入し、オペレーターを派遣できるのかどうか。

そして、懸案である若い人材の確保だ。現実的には、協会団体の青年部会などが建設業の使命などを地元の中高生などにアピールし、学校卒業後に地元建設会社へ就職させなければ、不可能ではないか。

被災現場へ駆けつけるのも、異業種に参入するにも、とにかく人材。人が居なければ何もできない。



大井町山田字石河ら山土地改良区で盛り土工が進む農地土地改良事業(地権者数17人)。計画総土量約22万㎡のうち、県工事で発生した残土10~12万㎡や、さがみ縦貫道路建設で発生した残土約8万㎡などを活用する。開発面積は約3.2ha。

株式会社 富士建設

足柄上郡中井町井ノ口2444-1 TEL(0465)81-0070 FAX(0465)81-1029